青木猛比古特集号刊行に当って

渡辺澄夫

明年は明治維新後百年目にあたるので、本会でも何か意義ある企てをし、維新の変革を改めて再検討し、その意義を再確認する一助にしたいと考へていた。

幸にも、会員疋田泉氏は郷党の勤王の志士青木猛比古の研究家であり、その顕彰のため先学の記録を写し、また古老からの見聞を記しなどして資料を集めていた。文献の出典や所蔵者等不明の所もないではないが、中には佐藤蔵太郎・下川勝三郎・高司正直等の有名な物故人の記録も含まれており、猛比古と直接接した人の見聞や伝聞などが記され、得難い資料となっている。本会は疋田氏の協力を得て、この資料を刊行し、青木猛比古特集号とすることにした。

猛比古は天保二年天領豊後国海部郡堅田郷の農家に生れ、少時海福寺に入寺させられたが、勤王の志やみがたく、脱出して京都の神祇伯白川資訓王に事えて王事に奔走した。慶応三年三月有力公卿を奉じて西下するため入京し、幕史の手に暗殺された。年三十七才。昭和七年に顕彰碑が建てられ、盛大な除幕式の行われたことは山田氏や故高司氏の記録にくわしい。

維新史の裏舞台である郷土にも、こうしたすぐれた先覚者が少なくない。このような人物を発掘することが、われわれの一使命でもある。疋田氏の協力に感謝したい。